

図書館 だより

LIBRARY
INFORMATION

ゆっくり本を楽しむ

8月 図書館カレンダー

2026 年 August						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

■休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日）
◎お話し：8月はお休みです。

【合同読書会参加者募集のお知らせ】

1冊の「本」を介して楽しくおしゃべりしませんか？さまざまな視点と出会うことで、新しい読書の楽しさが見つかるかもしれません。初めての方もお気軽にお申し込みください。

日時：9月5日 国 午前10時～正午

定員：20人（申込順）

場所：下稲吉コミュニティセンター

申込方法：図書館本館までお電話ください

内容：『でんでんむしのかなしみ』（著者：新美南吉）

主催：読書会連合会

☎ 図書館 ☎ 029-897-0647

応募資格：市内居住・在勤の方

募集区分：題材は自由。以下の3区分から募集します。複数作品の応募も可能です。

① おすすめの本紹介：1人1作（300文字以内）

専用の応募用紙を使用してください。（図書館本館・分館カウンター、または図書館ホームページからダウンロード）

② 読書感想文（一般の部）：1人1編（400字詰原稿用紙5枚程度）

③ 標語：1人3句以内（例）第80回読書週間の標語「静かだけど、冒険中。」

※応募作品の原本はお戻ししませんのでご了承ください。

※他のコンクールの受賞作は応募できません。

応募方法：住所、氏名、電話番号、在勤の方は勤務先を明記の上、図書館本館へ提出（持参、郵送、メール）

応募先：〒300-0134 かすみがうら市深谷3719-1 かすみがうら市立図書館

メールアドレス：toshokan@city.kasumigaura.lg.jp

応募締切：9月11日 国 必着

◆入賞作は図書館本館に展示（10月16日 国～11月26日 国）

詳細は図書館ホームページをご覧ください▶



文芸ひろば

投稿作品

千代田俳句同好会	梅雨に入る重き空気のの中に居り	桜井筑蛙
梅雨晴や母の手紙に手毬歌		鈴木けい子
夏落葉小町の里に句碑あまた		中島暉子
参道の古き石段額の花		萩原初枝
一雨に息吹き返へす額の花		福田妙子
コンビニヘデザート買ひに梅雨籠		飯沼礼子
紫陽花俳句会		久保庭悦子
来し方に少し悔ありあやめ咲く		島田和子
咲いて良し活けて彩るあやめかな		原田佳代子
田水張るカエルの合唱音楽隊		島田昌男
つばめ来て家の軒先にぎやかに		岡田恭子
出島短歌会		名倉親子
切り分けしメロンの端の鋭くて食べればほのかに身のやわらかし		仲谷香代子
計らずも風邪で寝込みしその朝の孫の足音ただにせわしき		華師寺玲子
ひらひらのビニール袋一枚も異国に頼るものと覚えし		矢口哲雄
「百万回生きた猫」読む昼下がりに一回目を生く老等居眠る		中島良平
投稿作品		石塚賀子
せつちちになつたらそれは年寄りになつた証拠と誰かが言った		石塚清子
見渡せど見渡せどなお果て知れず空と雲なるモンゴル草原		岡田よう子
一人では心がおれるマラソンも仲間と走れば笑顔でゴール		高野新一
思うがに活字拾えぬ眼を愛い美智子皇妃のゆうすげ拝読		兼西清治
梅雨入りて一際美し紫陽花の色とりどりに朝を迎えり		中村耕二
夏告げの風鈴音色吹く風に涼を運びて隣からなり		飯島すみ子
梅雨空もあじさい見れば気分晴れ		
厄除けの神と歩合わす茅の輪かな		
雨上がりに下校グループ弾む声		
夏風邪や兄弟会の置き土産		
赤・緑スーパの淡い色彩に		

投稿作品（俳句・短歌・川柳）を募集します。8月3日 国までに情報広報課（〒300-0192 大和田562）へお願いします。
※応募多数の場合は掲載されない場合があります。また、【電話番号】【漢字にはふりがな】の記載をお願いします。

WEBで投稿
できます



人生の 先輩



まつくら よしひろ
松庫 義弘さん

大塚団地地区在住（79歳）

健康の秘訣をお聞きました

ラジオ体操、頑張ってます！

参加者からの声

- ・大声でラジオ体操の歌をうたい、体をほぐすと体調の善し悪しが分かる
- ・6時30分に間に合うように早起きになった
- ・情報交換（おしゃべり）も同時に楽しめる



大塚ファミリー公園
月～金曜日の毎朝6時30分から

皆さんは、「ラジオ体操」と聞くと、子どもの頃夏休みに参加した記憶がよみがえりますか？

大塚団地では、14年前から健康増進と早起きでリズムを整えることを大目的にラジオ体操をしています。そして、大塚団地のシニア世代と小・中学生との交流の場となればと、2013年の夏休み前に子ども会にも声掛けして開始しました。始めたころは、夏休みごとに小学生が30人近く参加してくれて、賑やかに「ラジオ体操第一&第二」をやっていました。今はお父さんに連れられて4人の子どもたちが駆け

つけてくれ、数は激減しましたが走り回ってシニア世代に元気を与えています。出勤簿のように「励み票」を作って、出席すると手作りシールがもらえます。シールがたくさんたまるとなんとなく嬉しくて、皆さん頑張っています。

このようにラジオ体操で一日のスタートを切る、生活リズムになっています。大塚団地住民だけではなく、近隣の方も参加していますので、どなたでも大歓迎です。どうぞ、一緒に！

▲励み表



「人生の先輩」への掲載を募集しています。

対象▶市内在住の65歳以上の方
応募▶情報広報課までお電話ください。

☎ 情報広報課（霞ヶ浦庁舎）
☎ 029-897-1111

歴史 に ふ れ る

生誕150周年
ソーセージの父
飯田吉英（後編）

歴史博物館では、今夏から吉英の特別展を開催予定です。
ぜひ足をお運びください！

明治41年（1908）に帰国した吉英は、農商務省が創設した月寒種畜牧場渋谷分場の嘱託職員、大正5年（1916）には農商務省本が都村（現在の千葉市中央区）に新設した畜産試験場の技師を歴任しました。畜産試験場では製造部に所属しハム・ベーコン・ソーセージなどの製造と研究に従事し、豚肉加工講習会を開催することで食肉加工業者の育成を行っていました。

当時、日本は第一次世界大戦に参戦しており、中華民国の青島（現在の中華人民共和国山東省）での戦闘で多くのドイツ兵を捕虜とし、各地の収容所に送っていました。習志野（現在の千葉県習志野市）の収容所には、カールヤーンという人物がいました。彼は食肉加工業を経営していた技術者で、収容所内でソーセージ作りを行っていた。日本人の体格向上のためにソーセージが効果的であると感じていた吉英は、彼にソーセージの作り方を教えてもらうよう頼みます。ギルド（職人の組合）の秘伝であると断っていたカールヤーンでしたが、吉英の熱意に負け、ついに

6月号（6月20日発行）訂正とお詫び
「飯田吉英」のふりがなに誤りがありました。訂正してお詫びします。
【誤】飯田吉英（いいたよしひで） 【正】飯田吉英（いいたよしふさ）

ソーセージ作りを教えることになりました。その後、吉英は彼から学んだソーセージ作りを講習会によって全国の食肉加工業者に広めました。また、吉英は博覧会などのコンクールでも大きな影響を残しています。大正8年（1919）には上野公園で開催された第1回畜産工芸博覧会の主任審査官を務め、厳しい講評で出品者に改良を促しました。その後、博覧会が活発に開催される中で、食肉加工業者の指導にあたったことで、ソーセージの質が飛躍的に向上し、生産量も増加したのです。



▲製造実験中のカールヤーンと吉英

大正13年（1924）に畜産試験場を退官した後は台湾総督府に勤務し、食肉加工についての助言や指導に注力しました。そして昭和3年（1928）に退職し、戸崎村（現在のかすみがうら市戸崎）に帰郷しました。帰郷後は、昭和15年（1940）設立の大日本豚肉加工協会の顧問を務めつつ、雑誌や書物などの原稿執筆も手掛け、昭和51年（1976）に99歳で亡くなるまで、食肉加工の普及に尽力しました。

現在、私たちの食卓には当たり前のようにソーセージが並ぶようになりました。ソーセージを味わう際には、ぜひ吉英の事績を思い浮かべてください。

☎ 歴史博物館 ☎ 029-896-0017